

地域一丸で壁画を制作し「恐竜のまち」をPR

鹿島地区コミュニティ協議会 小村 甘菜

団体名 鹿島地区コミュニティ協議会

事業名 「恐竜のまち鹿島」壁画作成事業

観光客誘致が課題の鹿島地区

〇キロメートルの東シナ海に位置し、
上甕島、中甕島、下甕島の有人島から

成ります。里・上甕・下甕・鹿島の四村で構成されておりましたが、平成一六年に本土の川内市せんだいほか四町と広域合併により、薩摩川内市となりました。また、令和二年に住民の長年の悲願である「甕大橋」が開通し、三島が橋で結ばれました。

鹿島地区は、下甕島の北部に位置し、

三〇一人が暮らしています（令和七年四月一日現在）。甕島列島は全域が国定公園として指定されている風光明媚な場所、鹿島地区の西海岸にある「鹿島断崖」は、切り立った海蝕崖かいしつがいが約一六キロメートル連なり、海蝕洞や小島が点在し、ウミネコの繁殖南限地やカノコユリの群生地になっています。

私たち鹿島地区コミュニティ協議会（以下、鹿島地区コミ）は、同地区の住民全員を会員とし、「環境美化活動」「郷土芸能の保存活動」「地区の特性を生かした子ども会活動」「スポーツ活動」な

ど、住民が主体となった地域づくりを推進しています。令和六年度、鹿島地区コミでは「離島人材育成基金」を活用して、地区の堤防に恐竜の壁画を描きました。

甕島列島には「姫浦層群」と呼ばれる白亜紀後期の地層が分布しており、鹿島地区でも二枚貝やアンモナイトなどの化石が、これまでにたくさん見つかっていました。さらに、平成二〇年に鹿児島県内初となる恐竜化石が発見されて以来、次々と同様の化石が発掘されてきています。



島内の子どもたちが壁画の制作に参加。

平成二七年、薩摩川内市鹿島支所内に、島内で発見された化石を展示する「甕ミュージアム恐竜化石等準備室」がオープン、さらに前述の「甕大橋」が

開通したことで、鹿島地区では観光客増加の期待が高まりました。しかし、実態としては道路に看板がないため、せっかく訪れたのに道に迷ってしまった、大々的なPRをしておらず、かつ鹿島地区内に飲食店がないことから、地区を素通りされてしまうことも少なくありませんでした。

専門家の指導のもと 子どもたちと壁画を制作

壁画プロジェクトは、そんな折に地域住民から鹿島地区コミに「堤防に恐竜の絵を描きたい」との相談があったことを契機に始まりました。「地域の子どもたちにも描いてもらおう」「道路脇なので危ないのではないか」「せっかく描くなら、美術に精通する方に指導してもらってはどうか」など、三年間協議を重ねた末、甕ミュージアムのPRも兼ね、撮影スポットになる恐竜壁画

を描き、地域住民の郷土愛の醸成を図るとともに観光客の増加を目指す、という内容で計画がまとまりました。

壁画の制作にあたっては、長年にわたり甕島で地域や行政と連携し、恐竜化石などの調査・研究を行なっている熊本大学から、教育学部美術教育の松永拓己教授に来ていただき、指導を受けました。壁画の制作が初めての私たちは、何をどう準備したらいいのか、まるで分からず、不安でいっぱいでしたが、他の地域で壁画を描いた経験のある松永教授と、事前に必要な道具・ペンキの量・行程などの詳細について打ち合わせができたことで、プロジェクトは一気に進捗しました。

壁画を描く場所は鹿島地区から甕大橋へ向かう道中の堤防です。下甕島の北端でカノコリなども自生する鳥の巣山展望所や鹿島断崖を望む夜萩円山公園などの景勝地へ向かう道と、県道とが交わる地点のため、多くの人々の

目に留まる絶好の場所でした。壁画の大きさは高さ約三メートル、幅一〇メートルで、トリックアートのように絵の世界に入り込んだ写真が撮れるようなデザインに決定しました。

壁画の制作当日、松永教授と数名の学生たちが来島し、半日であつという間に下書きを描いてくれました。この段階で既にかんがりのリアルさ・迫力があり「これはすごい物ができる!」と、胸が高鳴ったのを覚えています。翌日からの着色作業には、地域の方々と甕島の小・中学生が参加し、熊本大学の皆さまに教わりながら、和気あいあいと色を塗り進めました。

台風のため、計画していた六日間のうち、二日間作業を中断せざるを得ないハプニングもありましたが、それでも皆の力で令和六年八月三〇日に無事に完成させる事ができました。延べ八三名もの地域住民の参加があったほか、差し入れをいただくことや、車を停め

て応援してくださる方が沢山おりました。恐竜壁画をきっかけに、これまで身近で当たり前だった化石や甕ミュージアムを、「鹿島の魅力」としてより一層全国にPRし、地域を盛り上げていこうと、住民一丸となれたことを実感しました。

壁画の前で撮影をする、リアルなティラノサウルスに今にも食べられてしまいそうな写真、トリケラトプスと力比べをしているようなカットなどが撮れます。構想通り、絵の世界に入り込める壁画の完成は、鹿児島県の新聞社にカラー記事で取りあげていただきました。自分が描いた恐竜壁画の前で楽しそうに撮影している子どもたちを目の当たりにすると、きつと彼らは、この壁画を誇りに将来に渡って鹿児島地区の良さをさまざまな人へ伝え、広めていてくれるだろうと確信しました。

鹿島地区コミでは、恐竜壁画のチラシを五百部以上作成し、観光案内所や

フェリー・高速船乗り場など島外三カ所、島内四カ所に設置したり、イベントの際に配布するなど周知に取り組んでいます。もちろんSNSでも発信しています。今後は、恐竜や壁画を取り入れたイベントを開催し、交流人口の



完成した壁画を使って、ティラノサウルスに食べられそうな写真を撮影。

離島人材育成基金助成事業 事務局より

人材育成基金助成事業では、島や地域が一丸となって取り組む活動を重点的に応援しています。当事業は、申請当初、鹿島地区コミュニティ協議会と熊本大学の二者のみによる活動として計画されていましたが、甕島列島が一体となって子どもたちを活動メンバーに呼びかけることを条件に採択させていただきました。関係者の人数が増えることで、舵取りが困難になった場面もあったかと思いますが、子どもたちはもちろん、事業に関わった多くの方々が壁画の前を通るたびに、この時のことを思い出すなど、郷土愛を深めるのではないのでしょうか。今後も、甕島が一丸となった継続的な活動がなされていくことを期待しています。

地域が一体となることで、事業終了後も一過性ではない取り組みにつながっていくことは、さまざまな事業にもあてはまります。本助成事業への申請をお考えの方は、実施内容を地域の皆さんと広く共有し、共感者を集め、活動を強固にすることが採択への近道です。架橋により甕島が一つに結ばれたように、地域住民が一丸となるような申請をお待ちしています。

増加につなげたいと考えています。

■「恐竜のまち鹿島」を後世へ

壁画完成から約半年後の令和七年四月一日、「甕ミュージアム」が博物館としてリニューアルオープンしました。鹿島には貴重な化石が身近にあるため、

日本全国はもちろん、ときには海外の研究者も訪れ、発掘・研究を進めています。地元の化石の研究成果を対外的に発信していくとともに、地域住民自身が地元の資源の価値をより深く理解するための社会教育の場になってほしいと思います。化石をはじめとする自然史資料を保管し、後世まで守り伝え

ていく博物館となることが、私たち地域住民の願いです。

じつは、完成した恐竜壁画を見て「もっと大きくしてほしい」「この絵の続きが見たい」などの声が多く寄せられており、とても嬉しいです。今回の事業で培ったノウハウを生かし、「恐竜壁画の続きを描く」企画を立てたいと、構想を膨らましています。甕ミュージアムと恐竜壁画の相乗効果で「恐竜のまち鹿島」のことが広く知られ渡り、甕島に足を運ぶきっかけとなるよう、今後も情報発信やイベント活動に力を入れていきます。皆さまもぜひ甕島、鹿島地区にお越しになり、恐竜の壁画や化石を直にご覧ください。お待ちしております。

小村 甘菜（むらかんな）

昭和六一年長野県生まれ。平成二四年に甕島・鹿島町に嫁ぐ。令和五年より鹿島地区コミュニティ協議会に勤務。山で生まれ育ったため、島に来て一〇年以上経った今でも海を見ては感動をしている。